

(別記)

杵島地区農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、佐賀県の中西部に位置し、比較的温暖な気候や土壌などの恵まれた環境のもと、米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業をはじめ、施設園芸や畜産を展開している。

このような中、水稻については、米の生産数量目標に沿って、「さがびより」の生産拡大や、特別栽培米、種子生産に取り組んできた。

また、麦・大豆については、水稻と同様に種子生産に取り組んでおり、需要に応じた作付けに努めている。特に、大豆については、転作作物の主要品目として作付けを行い、ブロックローテーション等による生産拡大に取り組んでいる。

さらに、露地野菜については、玉葱を主体とした産地形成を図りながら、露地野菜の産地化に努め、施設野菜も含めエコファーマーに取り組むなど「安心・安全」な生産・供給を行い、有利販売に努めている。

しかしながら一方では、所得確保のために農外収入を求める人も多く、兼業化が進んでいる。それに加え、農業後継者不足や農家の高齢化により、今後の農業の担い手や農業者人口の不足が懸念される。

このようなことから、集落営農組織や大規模農家等の担い手育成を行うとともに、米・麦・大豆を中心に生産コストの低減や品質・収量アップに向けた技術の導入を進めながら、高品質で消費者、実需者ニーズに見合った農産物の生産をより一層推進する。また、女性や高齢者を中心に比較的小規模で取り組める露地野菜等の作付け拡大を図る

2 作物ごとの取組方針

米、麦、大豆を中心とした土地利用型農業をさらに推進するとともに、大豆を転作作物の主体として生産数量目標に沿った主食用米の計画的な生産を図る。

また、産地交付金を有効に活用しながら、玉葱等の野菜振興を図り、水田の高度利用を推進する。

(1) 主食用米

当地域においては、生産数量目標に即した計画的な作付けの推進を図っており、28年産の作付実績については、「夢しずく」が121ha、「ヒノヒカリ」が102ha、「さがびより」が221ha、「ヒヨクモチ」が281ha、「それ以外」が5.5haとなっている。

特別栽培米や種子生産を含め、需要に応じた生産を推進するとともに、気象条件に応じた栽培管理により品質向上を目指す。

(2) 非主食用米

ア WCS用稲

地域内での十分な話し合いのもと、畜産農家との連携による需要に応じた生産に取り組むとともに、大豆のブロックローテーション等を妨げないように留意する。なお、雑草の発生や病害虫の被害を受けないように、主食用米と同様に適切な管理を徹底する。また、特別栽培米や種子生産の取組を行っているため、コンタミ（混入）には細心の注意を払うこととする。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、今後とも地域の重要な戦略作物として、実需者の要望に応じた計画的な作付けを行い、適期播種や病害虫防除等を徹底することにより、生産量や品質の向上を図る。また、産地交付金を活用しながら、麦わらすき込み等の取組を支援し、環境にも配慮した農業の実現に向けて地域をあげて推進していく。また、二毛作として麦の作付けに取り組む場合についても、産地交付金の産地戦略枠から支援を行う。

大豆については、転作の基幹作物として作付け拡大に努め、ブロックローテーションによる連作障害解消や団地化による作業効率化により生産拡大を図る。また、産地交付金を活用し、現在の団地化面積は361haであり、目標年の平成30年には370haに維持拡大を図るとともに、担い手（認定農業者・集落営農・法人等）への強化促進を図り、不耕起播種技術の取組を推進する。

飼料作物については、畜産農家との連携による需要に応じた生産を図り、耕畜連携を推進する。また、水田フル活用の推進のため二毛作助成を行う。

(4) 園芸作物

玉葱を主体とした露地野菜の産地化に努め、野菜も含めエコファーマーに取り組むなど「安心・安全」な生産・供給を行い有利販売に努め、施設園芸作物（花き・ナス・いちご・アスパラ・きゅうり・ネギ）の強化、拡大に取り組むため、産地交付金を活用し生産拡大を推進する。

(5) 不作付け地の解消

中山間地等の不作付け地について、圃場条件が悪く、作物の作付けが困難なものが多く、改善に向けた取組を検討することとしている。そのため、圃場条件を整備し利用を図るとともに、人・農地プランに基づく担い手への農地集積等により、その解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	732.3	760	800
米粉用米	0	0	0
WCS 用稲	39.9	43	50
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	962.1	975.8	1,000
大豆	368.1	361	370
飼料作物	14.9	15	20
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	35.4	38	45
露地野菜	23.5	25	30
施設園芸	8.3	9	10
花き	3.6	4	5

4 平成 30 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)	平成 30 年度 (目標値)
1	大豆	作付けの団地化	イ	実施面積	360	360	365
2	二毛作	麦、飼料作物の 作付け	ア	実施面積	960	970	980
3	WCS 飼料作物	資源循環	イ	実施面積	23	30	35

※「分類」欄については、実施要綱別紙 15 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。